

学校点描

熊本地震の募金箱を作りました。さっそくH先生がお金を入れてくれます。運動会当日は、受付に置きます。

《最上中学校》

NO 2 H28. 4. 24

担当：教頭

NO1のたよりを出した後、2人の方から感想をメールでいただきました。また、T小のS校長先生やH小のO教頭先生からは、「読んだよ」と感想の声をかけていただきました。なんだか、やる気がわいてきます。意外と単純です。

また、こんなメールもいただきました。「夜練習のために、お弁当を持参したのですが、なかなか出てこない子どもに渡せなくて困っていると、3年生のS・Aさんが、『わたし玄関に行って見てきましようか?』と声をかけてくれました。S・Aさん自身、誰かを待っている様子でしたのに、ありがとうございました。・・・」というものです。翌日、運動会練習を終えて、夕方バス停で友人と待っている、S・Aさんにこのことを話しました。隣の友人が、「すごいね」と言います。なんとなく、照れながらもS・Aさんがにっこり笑いました。

4月は何かと会議が多い月です。8日(金)には、町に勤務する教員が一同に介する全体集会在、中央公民館で開催されました。小中の学校の先生が全員集まっての会議です。右の端っこの椅子に座っていると、大堀小のY・K先生がわざわざ声をかけてくれました。実は、M中学校の23年前の教え子が、Y・K先生なんです。「先生の“学校点描”見てます。うちの学校の職員室で回覧されますから。中学校の頃から変わらない先生の心の通信ですね。」なんて言ってくれます。わずかな時間でしたが、Y・K先生と話をしていると、子どもたちはあつという間に大人になって、私はあつという間に年老いていくことを実感します。光陰矢の如しという言葉は知ってはいましたが、沁みるように実感する歳になるとうとは思いませんでした。

実は、今、M中では3人の教え子と働いています。がんばっている姿を見せなくてはなりません。

火をつける

満開の桜はどうやら運動会前には散ってしまいそうです。Y先生と3年のM・Mさんがたすきをつなぐ県縦断駅伝も近づいてきました。「レース当日は何を食べるんですか?」とY先生に尋ねました。「わたしは、パスタですかね。餅の人もいますが、わたし苦手なんです。パスタはエネルギー出ますね。あと、やっぱりおにぎりかな」Y先生は、大学卒業したてです。大学時代は、毎日30キロは走っていたランナーです。青森出身で陸上に青春をかけた先生。毎朝、地区中駅伝大会に向けて練習している生徒たちを、S先生と一緒に指導してくれています。Y先生の一言は、生徒にあるランナーという才能の火種にきっと火をつけます。

先週から始まった運動会練習は、1日、1日と本格的な雰囲気为学校全体に広がっています。

先週、地区中体連の会議がS市内で開催され、多くの先生方が出張で学校を空ける日がありました。M中学校には各競技の専門委員長がたくさんいるのです。当然、それでも運動会練習は続行です。私は、体育館で行っている白組の組練習の様子を見る担当になりました。

応援合戦を指導する組頭、服装点検を説明する生徒、ラジオ体操の見本となる生徒、リレーの走順を決める生徒と、役割分担された説明によって大変スムーズに1年生や2年生をリードしています。きっと学級内で綿密に打合せをしているのでしょう。とても感心します。

その背景には、担任の先生が上手に、生徒たちの心にやる気の火をつけているからなのです。

組練習後半は、ムカデ競争に向けた練習です。2年生や3年生と比べて、明らかに1年生はムカデリレーの技術が劣っています。3年生や2年生が、どんどんスピードアップしながらムカデを走っている中、1年生のあるグループは、うまくいかないことに、けんか気味の雰囲気が出てしまいました。「せ〜の！」大きな声を出して、2年生と、3年生のムカデが、その脇を勢いよく走っていきます。途中何度も転んで、膝を床にぶつけ合いながら、それでも笑顔でみんな、誰のせいとも言わずに、並び順やタイミングの取り方を話しあっています。

わたしも以前、中体連の専門委員長をしていましたが、ある本の中にこんな話があったことを覚えています。優秀な陸上の指導者であり中学校の先生でもある方のお話です。その方は女性の指導者でした。

～「どうして、先生が教えると伸びるんですか？」と筆者。

聞いてみるとびっくり、それは簡単なカラクリだったんです。

試合が近づいてくると、練習でタイムを測るとき、実はいつもスタートからすこし間をおいてストップウォッチを押しているというのです。練習ごとに伸びていく自分の記録に驚きながら、選手たちはそのまま成長し、全国大会にそのまま出場してしまう。話を聞いて、やる気は、そこまで身体に影響するものかと学びました。

さらに、こんな話もありました。

「生徒が『よーし やるぞ！』と思うときがあります。でも、そのやる気が『ずっと続くもの』ではありません。わたしは、やる気が『すぐに冷めるもの』だと知っているから、冷めないようにいつも工夫しています。」～

やる気はきまぐれです。自分では、なかなか自由にコントロールできません。メールや感想を戴いた一言のように、「誰かがどこかでしっかり見ているぞ」とわかると、火がついたりします。

やる気は、自分の中にあるものになのに、自分の周りで起こった出来事に左右されるんですね。

目の前の1年生ムカデに、3年生のムカデが寄ってきて声をかけます。

「頼むぞ、1年生に（勝敗が）かかっているからな。お前たちなら大丈夫だぞ」と。

ポッ！と、激しい炎が、1年生に点火しました。

----- きりとりせん -----

ご意見・ご感想をお願いします。